



あゆみ

青梅市立河辺小学校
令和5年度12月号
青梅市立河辺小学校

学校便り No. 670
令和5年12月1日

個に応じた支援の充実 ～道徳授業地区公開講座講演会・ことばときこえの教室との連携～

11月25日（土）に開催しました道徳授業地区公開講座・学校公開には、たくさんの方がご来校くださり、授業の様子、児童の頑張っている様子をご覧いただきました。今回は、教室内での参観にだけ「各ご家庭1名で」との呼びかけのみさせていただきました。過密な状況にならないか心配しておりましたが、コロナ禍前の状況と比べてもスムーズに実施できました。保護者の皆様のご協力のおかげです。ありがとうございました。

同日の午後には、道徳授業地区公開講座講演会として、実践女子大学の塩川宏郷先生をお招きしました。先生は、大学で教鞭をとるかたわら、現役の小児科医として発達障害に関する診察にも携わっていらっしゃいます。「ほめ方・叱り方・言葉かけ」というテーマで、医師としての知見に基づいた「子育てのコツ」をお話いただきました。

講演の中で先生から、子供に関わる時の基本姿勢として、「臨機応変」「試行錯誤」「ネバーギブアップ」の3つキーワードを教えてくださいました。

「臨機応変」とは、子供のよくない行動があれば叱ったり注意したりするものですが、子供の行動を良い方向へ変容させることが目的であるので、指導する側が一步引いて冷静になり、その時にふさわしい対応を選択することが大切であること、「試行錯誤」とは、一般的に「良い方法」でも、どの子にでも当てはまるわけではなく、その子にとって良いと思う方法を試し、うまくいったものを継続して、子供の成功場面を増やしていくこと、「ネバーギブアップ」とは、うまくいかない時は対応を再考できるチャンスであり、子供の成長を信じて、指導する側の柔軟性や想像力を生かせる場面であると捉えること、と教えてくださいました。一緒に聞かせていただいた私たち教職員も、「子供を育む者」としての心構えをあらためて考える機会となりました。

この講演会は、「ことばときこえの教室」の保護者学習会と兼ねて実施させていただきました。河辺小には西多摩地区の難聴・言語障害教育を担う「ことばときこえの教室」が設置されています。「ことばときこえの教室」は「きこえにくさ」、「発音の誤り」「吃音」などに加えて、「読み書きの苦手さ」「話し言葉の苦手さ」等がある児童も対象となります。きこえにくさや発音、言葉等に課題のある児童への指導には、高い専門性が求められます。「ことばときこえの教室」が設置されていることは、河辺小学校の最も大きな特色の一つです。

今年も11月21日（火）に4年生を対象に、「ことばときこえの教室」の教員が難聴理解教育を行いました。これは難聴を切り口に、障害の有無にかかわらず、「誰にでも困り感や苦手なことはあること」「困っていることと向き合うために様々な工夫ができること」「困り感は周囲の人たちのちょっとした心遣いでなくなったり軽くしたりすることができること」等を学ぶことをねらいとしています。授業後の子供たちからは「誰にでも苦手なことがあることが分かって安心した。」「困っている人がいたら、自分にできる手助けをしたい。」などの意見が挙がりました。どの子も、「自分事」として捉え、考えてくれていたように思います。

河辺小学校では、「特色ある教育活動」の一つに「個に応じた支援の充実」を挙げ、学校全体で組織的に取り組んでいます。子供が成長していく中では、うまくいかないことやつまづいてしまうこともあるものです。「心配だな」と感じた時にはぜひ担任にご相談ください。コーディネーターの教員やスクールカウンセラーなどの心理士、生活指導部や養護教諭、「ことばときこえの教室」や特別支援教室「くわのき」等々と連携しながら、保護者の方と共に考えていきます。どうぞよろしく願いいたします。